

彩の歳時記

平成二十六年 二月

難波津に咲くやこの花 冬籠り今を春辺と咲くやこの花

王仁 (生没年不詳)

仁徳天皇の即位の祝に百済(くだら)の王仁博士が梅の花を添えて奉った歌。

「梅」は「嚴寒の三友・松竹梅」の一つで、百花に先駆けて咲き、芳香なことから祝辞の花。

遣唐使等が中国から持ち帰ったとされ、平安以前は「花」と言えば「梅」のことで万葉集に百二十首、櫻の四十首より多く収録されています。(秋の百四十首が最多)。

この歌は、競技かるた協会により、百人一首の序歌に選ばれています。古代より書道初学の手本の歌。大阪市の浪速区(なはやく)と此花区(このはな)はこの歌に由来。

花見に先駆けて「観梅」「梅まつり」が湯島や亀戸天神などで催されます。



二月の異称

如月 生更きと書き、草木が生き更える早春月の意味。寒さが厳しいので衣更着とも。

二月の暦

一日 テレビ放送記念日

昭和二十八年(1953年)、日本初のテレビの本放送が開始された。

三日 節分 雑節(ぎっせつ)

「季節を分ける」ことから節分。追儺(ついで)の豆を撒いて難を追い払う。

★卷寿司を恵方(今年は東北東)に向いてかぶりつく習慣は縁を切らずにかき込むことに由来。

四日 立春

春立つ日、いわば春の初日。禅寺では厄除けのため、門に「立春大吉」の紙を貼る。縦書き文字が左右対称になるのが、一年間の災難に合わないというおまじない。

七日 長野の日(オリンピックメモリアルデー) 1998年(平成10年)冬季オリンピック開会式を記念して制定。今年は五日に第22回冬季オリンピックがロシアのソチ市で開催される。



十一日 建国記念日

1967年(昭和42年)からの国民の祝日。かつて、紀元節「神武天皇の即位日」として奉祝されてきたが戦後廃止されていたもの。建国の日ではなく、あくまで建国を記念する日としたのも「紀元節」のイメージを抑えるため。

菜の花忌

作家・エッセイスト、司馬遼太郎 [1923~1996] の忌日。好んだ「菜の花」に因む。

十二日

菜の花忌

作家・エッセイスト、司馬遼太郎 [1923~1996] の忌日。好んだ「菜の花」に因む。

大阪生まれ。東大阪市に記念文学館。新聞記者を経て「梟(ふくろう)の城」で直木賞。

代表作「竜馬が行く」「国盗り物語」などで、並外れた才能を持つ男達を描いた。

二月一日に、文京区で司馬遼太郎賞贈賞式と第十八回シンポジウム開催。

十四日

聖バレンタインデー 元はキリスト教の記念日だが、女性から男性に恋を打ち明けてもよい日とされ、女性が愛の印にチョコレート贈る習慣が菓子業界の商戦と共に盛んに。



十九日

雨水【二十四節気】

空から降るものが雪から雨に変わり、氷が溶けて水になる。

二十三日 皇太子誕生日

1960年(昭和35年)ご生誕。東宮徳仁殿下は五十四歳に。

日本赤十字名誉副総裁 国際連合「水と衛生に関する諮問委員会」名誉総裁



二月の歌

春よ来い

大正十二年 三月

春よ来い

詞の相馬御風【1883~1950】は新潟県糸魚川の出身。「早稲田詩社」を設立。「都の西北」など

校歌や童謡を多く手がけた。曲の弘田龍太郎【1892~1952】は高知県安芸市生まれ。母は一弦琴

の名手。東京芸大で本居長世に師事、『鯉のぼり』『叱られて』『雨』『靴が鳴る』『千曲川旅情の歌』

など多数作曲。新日本音楽運動で宮城道雄等と洋楽と邦楽の融合を模索した。

まだ春が来ない季節、「春よ来いはいやく来い」と繰り返して、子供に寄りそってリズム

を取りながら歌う事ができる。「みいちゃん」「ジョジョ||草履(ぞうり)」「おんも||

家の外。おも(面)の変化」など幼児語が、かわいらしい。「みいちゃん」のモデルは、

相馬御風(そうまぎよふう)の長女で文子さん、大正十年生まれで神奈川県在住。



春よ来い はやく来い
あるきはじめた
みいちゃん
赤い襟裾の
ジョジョはいて
おんもへ出たいと
待つてゐる。
春よ来い
はやく来い
桃の木の
蕾もみんな
ふくらんで
はよ吹きたいと
待つてゐる。
※「はよ咲きたい」